



歯科衛生士 書き込み式 学習ノート

① 専門基礎科目編

医歯薬出版 編

I 編

人体の構造と機能

解剖学・組織発生学・生理学／栄養と代謝

II 編

歯・口腔の構造と機能

口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学

III 編

疾病の成り立ち及び回復過程の促進

病理学／微生物学／薬理学

医歯薬出版株式会社

1 人体の区分と方向用語

1 体の区分 (図1)

- 1) 体幹：頭部(頭, 顔), 頸部(頸, 項), 胸部, 腹部, 背部(腰, 殿部)
- 2) 体肢：上肢(上腕, 肘, 前腕, 手), 下肢(大腿, 膝, 下腿, 足, 会陰)

図1に名称を書き込んでみましょう。

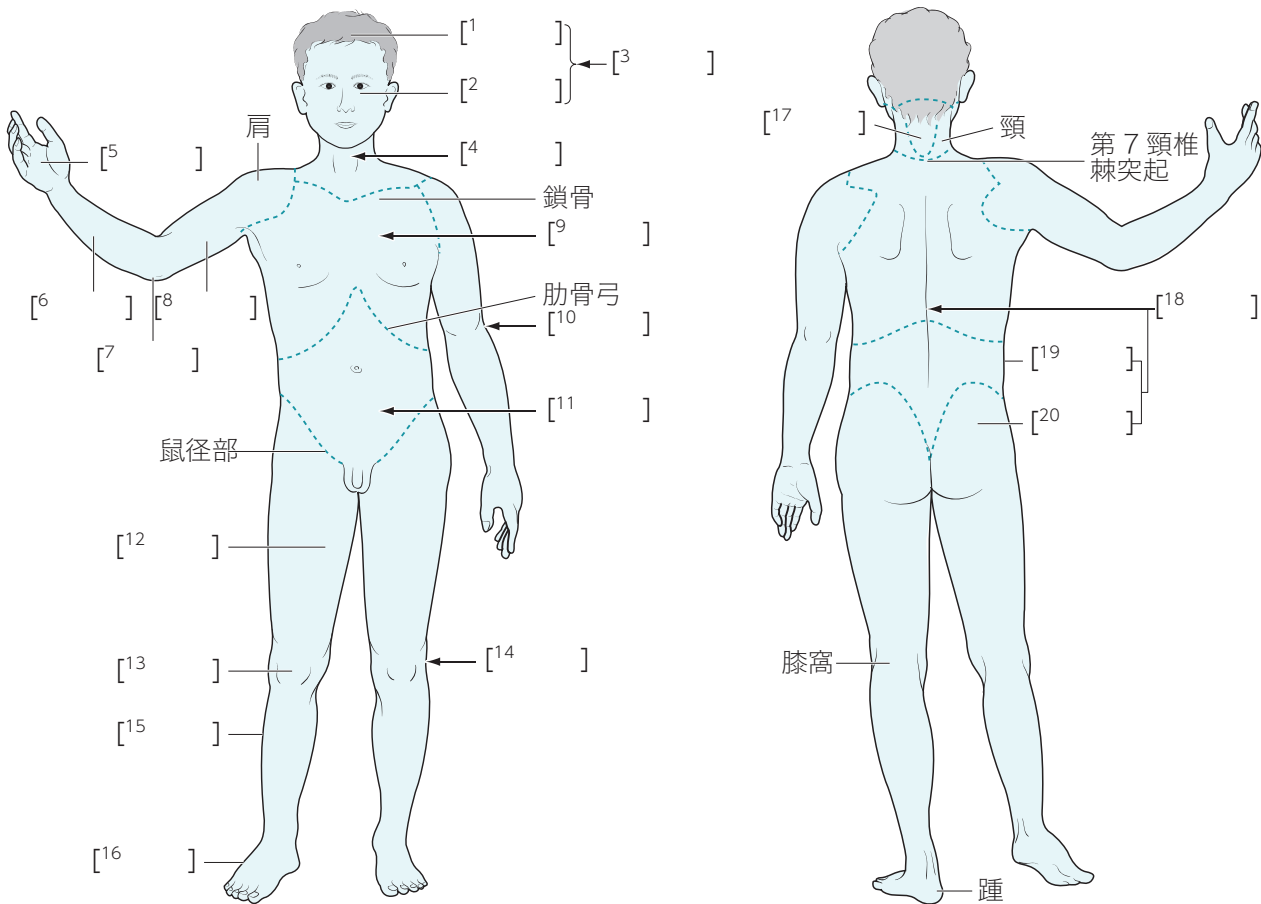


図1 体の区分
 (「解剖学・組織発生学・生理学」p.3~4)

2 組織

- ・ **定義**：組織とは、^[1] をもった細胞が集合したもの。
- ・ **種類**：^[2] 組織，^[3] 組織，^[4] 組織，^[5] 組織
- ・ **特徴**：組織は「細胞」と、細胞と細胞の間にある^[6] () で構成される。

1 上皮組織

- ・ 体の^[7] や腸などの^[8] など、空間に面している部分を覆っている。
- ・ 細胞間質はほとんどなく、細胞と細胞が^[9] により連結されている (図3)。

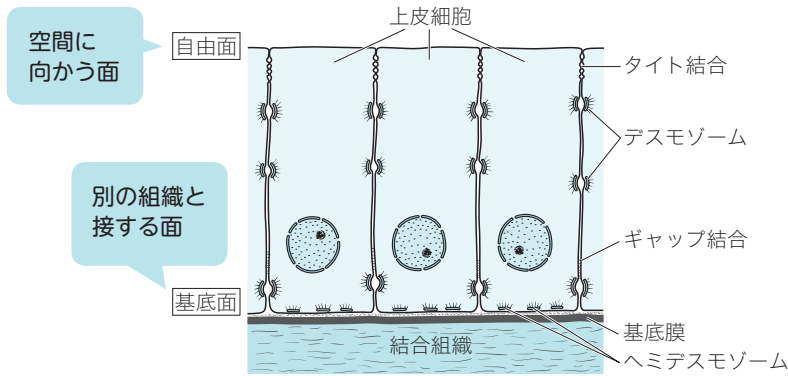


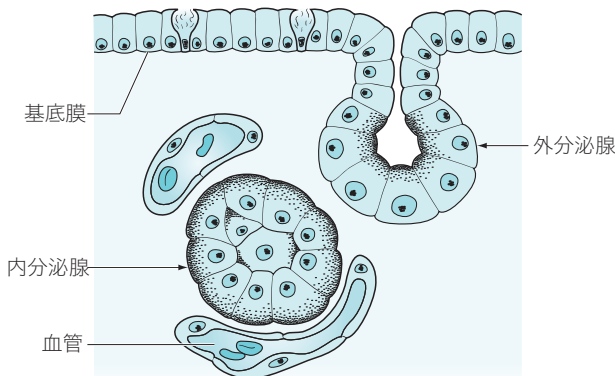
図3 上皮細胞の構造 (「解剖学・組織発生学・生理学」p.23)
結合組織とは基底膜で境される。

1) 分類(その1)：分泌形式による分類

- ・ ^[10]]：上皮の一部が自由面から深部へ落ち込んで、その上皮細胞が特別な物質を産生・放出することがあり、この分泌の働きをする上皮細胞の集まりのこと (図4)。

- ① **外分泌腺**：^[11]]面のほうへ分泌する。導管がある。
- ② **内分泌腺**：^[12]]面のほうに存在する^[13]]に向かって分泌する。導管がない。

導管とは、分泌物を運ぶ管のことです。



腺も上皮組織の1つ。

図4 腺の構造 (「解剖学・組織発生学・生理学」p.23)

8 前歯

1 切歯の形態学的特徴 (図48~51)

- ・ 歯冠の外形はくさび型で舌側面がくぼんでいる [1 状] となる。
- ・ 唇側面, 舌側面, 近心面, 遠心面の4つの面をもつ。
- ・ 各面の限界は縁とよび, 唇側面では近心縁, 遠心縁, 切縁, 歯頸縁に区分される。
- ・ 唇側面から見るとミュールライターの三徴候が顕著である。
- ・ 歯根は単根で近遠心的に圧平された円錐形で, 近心面が膨らんでいることが多い。

1) 上顎切歯

	上顎中切歯	上顎側切歯
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 切歯の基本形 ・ 隆線・溝が明瞭 ・ 明瞭な隅角徴 ・ 3つの切縁結節 ・ 基底結節 (舌側面歯頸隆線) が発達 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上顎中切歯の補助的役割 ・ 退化傾向 (円筒歯・円錐歯・矮小歯) ・ 盲孔 (図52) ・ 斜切痕



絵をなぞってみましょう

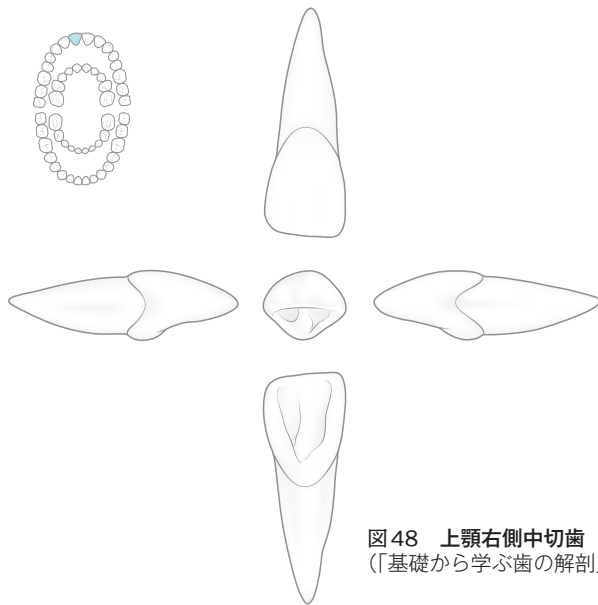


図48 上顎右側中切歯
〔基礎から学ぶ歯の解剖〕p.34)

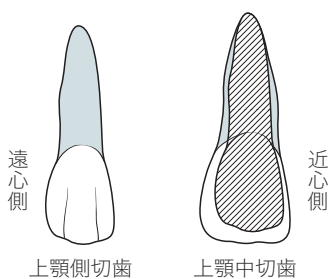


図51 上顎右側側切歯唇側面〔右側は中切歯との比較〕
〔基礎から学ぶ歯の解剖〕p.36)

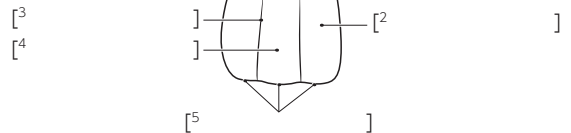


図49 切歯唇側面の浮彫像(上顎右側中切歯)
〔基礎から学ぶ歯の解剖〕p.30)

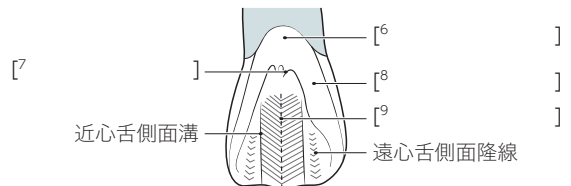


図50 切歯舌側面の浮彫像(上顎右側中切歯)
〔基礎から学ぶ歯の解剖〕p.31)

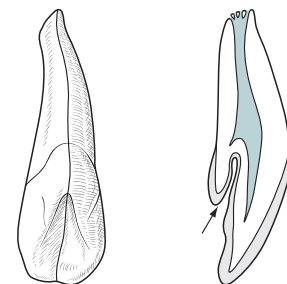


図52 盲孔
〔基礎から学ぶ歯の解剖〕p.37)

6 歯槽骨

1 歯槽骨の概要と機能

- ・ [1]] : 歯根をおさめている顎骨のくぼみ.
- ・ 歯槽が存在する突出した馬蹄形の部分の名称.
 - { 上顎骨では [2]]
 - { 下顎骨では [3]]
- ・ [4]] 中隔 : 隣り合う歯槽の間の骨質.
- ・ [5]] 中隔 : 多根歯で各根を隔てる骨質.
- ・ **歯槽縁** : 歯槽壁の自由縁
- ・ [6]] 歯槽骨 : 歯槽壁の骨質
- ・ [7]] 歯槽骨 : 固有歯槽骨を囲む歯槽骨
- ・ 歯槽骨はその周囲が [8]] 質 (皮質) で覆われ, その内部は骨髄をもつ [9]] 質で満たされている (図21).
- ・ 歯槽壁面は乳歯あるいは未完成歯では [10]] いが, 完成歯では厚く強固となり, 緻密な形状をとる.
- ・ 歯槽骨では **骨の改造現象** が起こっている.

骨の改造現象に関連する細胞の名称は重要です!! 支持組織 (骨組織) の項目で再確認しましょう!

- ・ 海綿質においては, 骨梁が圧に対して歯や顎を支持する構造で配列している. しかし, 対合歯を失い, 機能の減弱した歯の歯槽骨では骨梁の分布が [11]] になり, 走向も [12]] になっている.
- ・ 歯をなくした歯槽壁は [13]] される.
- ・ 骨折や抜歯創の治療においても骨の [14]] と [15]] が起こり, その後成熟した骨に置き換わる.

解剖用語を図20で確認しましょう!

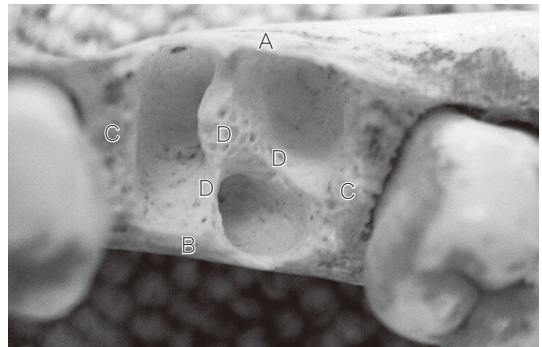


図20 下顎の歯槽と歯槽骨壁
 (「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」p.244)
 A: 頬側壁, B: 舌側壁, C: 槽間中隔, D: 根管中隔

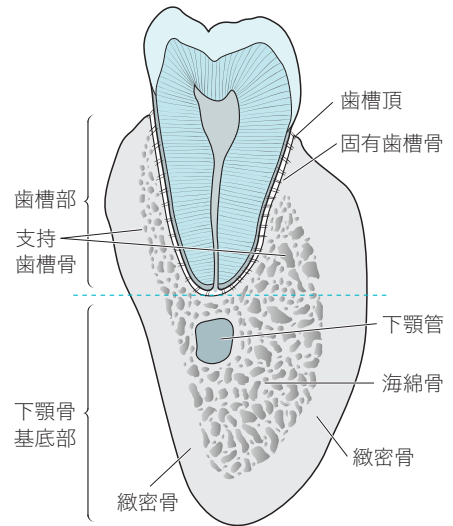


図21 下顎骨の断面 (模式図) (「口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」p. 244)

1 細菌の特徴と構造

1 原核細胞と真核細胞の違い (図1)

- ・細菌のみに存在する構造：細胞壁，線毛，鞭毛，莢膜，芽胞，核外染色体 (プラスミド)
- ・ヒトのみに存在する構造：核膜，ミトコンドリア，ゴルジ体
- ・細菌とヒトで異なる構造：リボソーム (細菌=70S，ヒト=80S)

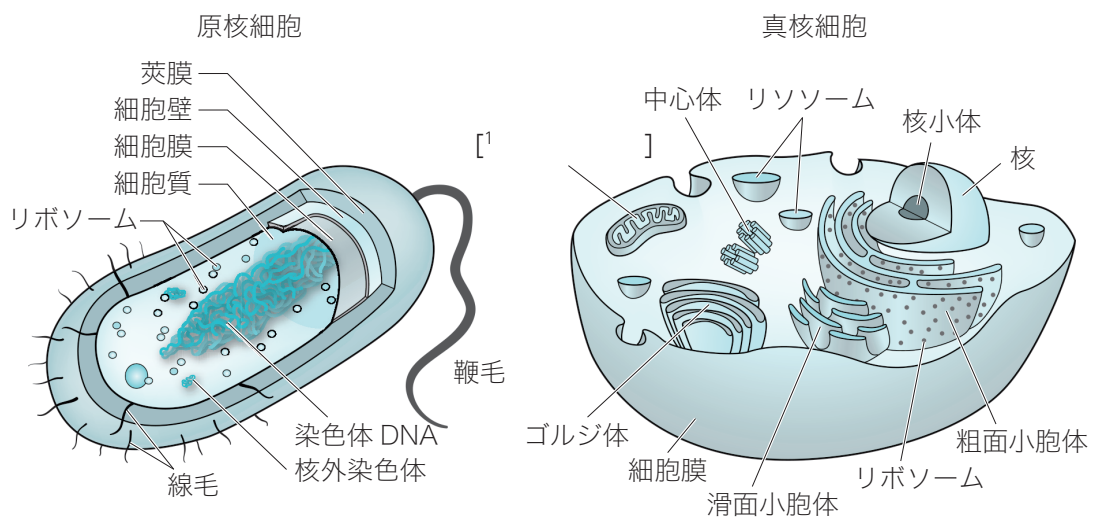
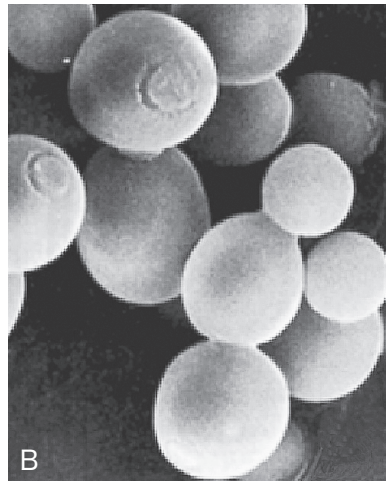
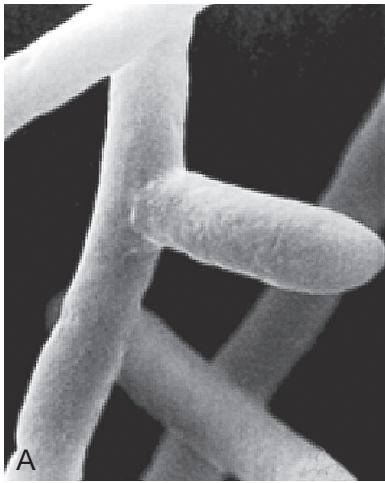


図1 原核細胞 (細菌) と真核細胞 (ヒト) の違い
 (「微生物学」p.14)

9 歯科に関連する真菌と原虫

1 真菌 (図22)



真菌細胞は、菌糸形と酵母形を基本形態とする。

図22 真菌細胞の基本形態
菌糸形 (A) と酵母形 (B) (『微生物学』p.70)

1) カンジダ・アルビカンス (*Candida albicans*) (図23)

- ・ [1] の主要な原因細菌である。
- ・ 易感染性患者や [2] 装着者の口腔粘膜部に、白苔状の斑点を生じる。
- ・ 口角びらんや嚥下困難を生じることもある。
- ・ 治療には、 [3] の抗真菌薬を使用する。

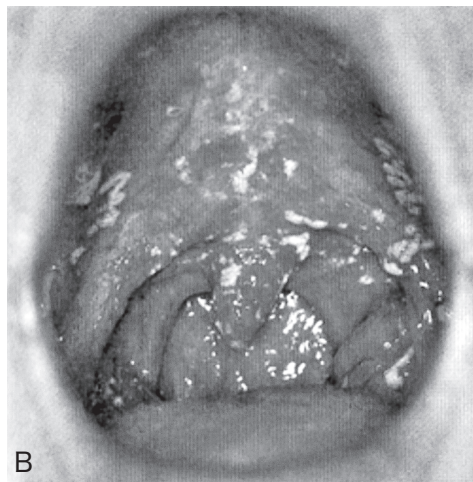
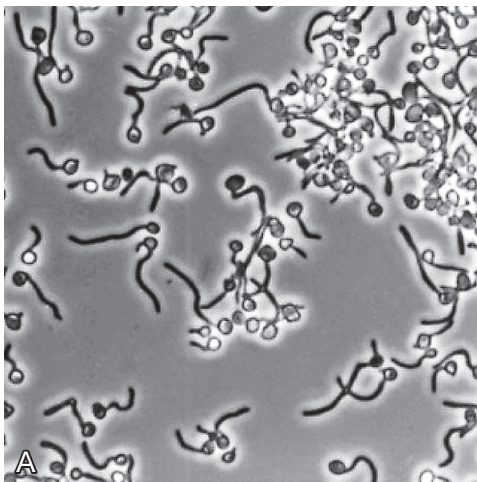


図23 カンジダ・アルビカンス (A) と口腔カンジダ症 (B)
(『微生物学』p.72)